

「新型コロナワクチン接種とリンパ浮腫」緊急インタビュー記事

新型コロナワクチン接種(以下、ワクチン接種)が進むなかで、リンパ浮腫を発症しているいないにかかわらず、多くのがん患者さんから「リンパ節が腫れたが大丈夫?」「接種がリンパ浮腫の発症や悪化の引き金にならない?」など不安の声がリンネットに寄せられています。

新型コロナワクチンは緊急的に導入された経緯もあり、リンパ浮腫との因果関係について、まだわかっていないことがほとんどですが、わかってきたこともあります。

そこで、リンネットでは当団体のアドバイザーである亀田総合病院リンパ浮腫センター長の林明辰先生に緊急取材を行い、現在までにわかっていること、わかっていないこと。リンパ浮腫の病態から考えられる可能性について、お答えいただきました。

コロナと共存していくなかで、がん検診も新型コロナワクチン接種も両立することがニュースタANDARDになる時代。ぜひ参考にさせていただければと思います。

2021年9月

リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)

<質問>

Q1 リンパ浮腫のあるなしに関わらず、ワクチン接種をした側の腋窩リンパ節が腫れることが明らかになっています。こういった理由で起きているのでしょうか。

A リンパ節は、異物や細菌、ウイルスが体内に侵入してきたことを知らせる「見張り番」の役わりをします。感染症やケガでリンパ節が腫れるのはそのためで、この現象を「反応性のリンパ節腫大」(以下リンパ節腫大)とよび、腫れた部位に熱を持たないのが特徴です。

重要なリンパ節は、首や鎖骨上部、脇、鼠蹊部にありますが、日本で主に使われているファイザー製、モデルナ製の新型コロナウイルスワクチンは、原則、腕の三角筋への接種を推奨されています。ワクチンの成分は構造上、腕から脇の下や、首のリンパ節に向かって流れるため、接種した側の脇の下や鎖骨の上のリンパ節が腫れることがあると、報告されています。

また、1回目より2回目の接種後にリンパ節が腫れる人が多く、腫れている期間も長いことが報告されています。腫れる人とそうでない人がいますが、それらの理由はまだ分かっていません。

Q1-1 「リンパ節腫大」は、他のワクチンでも見られる現象ですか?

A はい。ワクチンではインフルエンザ、BCGなどで、リンパ節腫大を引き起こすことが分かっています。

Q1-2 他のワクチンでも起こるのであれば、心配しなくてもいいということでしょうか?

A ワクチン接種後のリンパ節腫大は、良好な免疫反応を獲得している証と考えられていますので、

腫れは心配しなくてよいでしょう。

Q2 ワクチンによるリンパ節腫大は、どれくらい持続する可能性がありますか？

A ワクチンの種類や個人差もありますが、リンパ節腫大は、接種後1～3日で起こり、腫れている期間は2週間前後といわれています。新型コロナワクチンでは、10週間続いた例もあると報告されていますが、リンパ節が腫れたまま戻らないという報告は今のところありません。

Q3 がんの画像検査を予定しています。ワクチンはいつ接種するのがいいのでしょうか。

A 日本に先んじて報告されたアメリカの乳がん画像診断学会では、乳がん検診や乳がん治療後の経過観察は「ワクチンの接種の前か、2回目の接種から6週間あける」と推奨されています。

ただ、日本でのデータ蓄積が増えてきて、リンパ節腫大が長期間続くケースがあることがわかり、日本乳癌検診学会の発表では「2回目接種から6～10週間あける」とされています。

Q3-1 なぜ期間を空けたほうがいいのでしょうか？

A リンパ節の腫れが、ワクチンによるリンパ節腫大なのか、がんの発症やがんのリンパ節転移による腫れなのかの診断が難しくなるからです。

Q3-2 必ず6～10週間空けなければいけませんか？

A いえ、ケースバイケースです。たとえば乳房の異変に気づいているのに、ワクチン接種のために検査を遅らせてしまうことは絶対に避けるべきです。接種後すぐにかんげいの検査を受けてはいけない、ということではありません。ワクチン接種の時期に関わらず、気になる症状がある場合は、早急に乳腺科を受診しましょう。ワクチン接種後に画像検査を予約する場合は、接種した日程を医師に伝えるのがいいでしょう。

Q3-3 乳がん検診は期間を空けた方がいいのですか。

A 乳がん検診は画像診断を用います。乳がん検診を予定されている方は、検診が終わってからワクチン接種をされるか、ワクチン接種後、一定の時間をあけて検診を受けるのがいいでしょう。たとえ時期がずれたとしても乳がん検診は必ず受けるようにしましょう。

Q3-4 がん治療中や経過観察の検査と、ワクチン接種では、どちらを優先すべきでしょうか。

A がん患者さんにとって優先されるべきは、がんの検査です。ただし、ワクチン接種の時期も自由に選べる状況ではありませんので、ワクチンを接種する機会も逃さないようにしていただきたいと思っています。ワクチン接種と時期が重なる場合は、接種した日程を医師に伝えるようにしましょう。

Q4 ワクチン接種によって、身体全体がむくむ例はありますか？

A これもまだデータはありません。私の外来で全身がむくんだ患者さんはいませんが、稀にあるようです。むくんでも、1~2週間の短期的なケースが多いようです。2週間たってもむくみがひかないときは、主治医に相談しましょう。

むくみの原因として現状考えられるのは以下の3つ。①のケースが多いと考えます。

- ① 薬剤の成分によるアレルギー性の反応によるむくみ
- ② ファイザー製のワクチンは心臓に負担がかかることがあり、心機能の低下によるむくみ
- ③ リンパ節腫大によりリンパの流れが一時的に悪くなり起こるむくみ

Q5 腕へのワクチン接種によって、上肢のリンパ浮腫が悪化することはありますか？

A もともとあったリンパ浮腫が悪化するかに関しては、まだ何もわかっていません。ただリンパ浮腫の病態を考えると、可能性がゼロとは言いきれません。

リンパ浮腫になると、浮腫の周りのリンパ管が詰まりやすく、閉塞したリンパ管も増えます。ワクチンでリンパ節が腫れ、リンパの流れが一時的に悪くなると、さらにリンパの流れが滞り、管が詰まりやすくなる可能性がないとは言えません。

ただほとんどのリンパ浮腫の患者さんは、ワクチン接種によって一時的にむくんでも元に戻っていて、私の外来で悪化された方はまだいらっしゃいません。過剰に心配することはないと思います。

Q5-1 一時的なリンパ浮腫のむくみが10週間たっても引かない場合は、リンパ浮腫の悪化の可能性はありますか？

A 可能性はあります。ただ悪化の原因がワクチン接種とも言い切れません。接種に関係なく、疲労や日常生活で浮腫が悪化したという可能性もあり、現在、その判断は難しいといえるでしょう。

Q6 ワクチン接種によって、リンパ浮腫未発症の方が発症する可能性について教えてください

A この点についてもまだ何もわかっていません。ただ、未発症の方はリンパ節やリンパ管が正常に機能していますので、発症する可能性は低いと考えられます。

Q6-1 もしむくみが10週間たっても引かなければ、リンパ浮腫の外来や乳腺科を受診したほうがいいですか。

A 2か月を過ぎても浮腫みが引かない場合、発症の可能性がありますが、ただ、この場合も、リンパ浮腫の発症が、ワクチン接種なのか他の原因なのかの判断は難しいといえるでしょう。いずれにしても、リンパ浮腫は早期発見早期治療が大切です。腫れが引かなければリンパ浮腫や乳腺の専門外来を受診しましょう。

Q7 リンパ浮腫を発症している、またはリンパ浮腫になる可能性のあるがん患者の接種時に、むくみや症状悪化の予防としてできる対策はありますか？

A これもまだ十分なデータがある訳ではありません。今分かってきている対応策の1つは、接種部位でしょう。日本乳癌検診学会の発表では、術側と反対側の腕や大腿部に打つことが示されています。リンパ浮腫の方についてのデータありませんが、理論上、大腿への接種は選択肢の1つとなり得ると考えられます。接種会場によっては大腿部への注射が難しい場合もあるので、大腿部の接種を希望する方は、会場で相談されるといいでしょう。

Q7-1 臀部はどうですか？

A ワクチンは筋肉注射なので、脂肪が多い臀部よりも大腿部を、国内外の学会のサイトでも推奨されています。

Q7-2 両側乳がんで、片方が郭清、片方がセンチネルです。どこに打てばいいですか。

A ワクチン接種は腕の三角筋に打つことが基本ですが、センチネルリンパ節生検でもリンパ浮腫になる可能性はありますので、大腿への接種は選択肢の1つとなり得るでしょう。

Q8 リンパ浮腫とワクチンの関係について研究が進んでいますか？

A はい。世界中で研究され、今後データも少しずつ蓄積されていくので、1~2年後にはもっと詳しいことがわかっていると思います。コロナワクチンは今後も接種が続くと思われるので、常に新しい情報に触れるようにしてください。

Q8-1 リンパ浮腫予防のために、ワクチンを打たない選択はありますか？

A 現時点で命に関わるのは新型コロナウイルスです。分からないという理由でワクチンを打たないという選択はしないでください。現在のところ、リンパ浮腫の発症や悪化の報告はほとんどありません。

Q8-2 ネットはワクチンの情報にあふれています。リンパ浮腫とワクチン接種の信頼できる情報はどこにありますか？

A ネットにはワクチンに関して間違っただ情報も多く散見されます。リンパ浮腫に関して現段階でわかっていることとして、以下のサイトなども参考にされるといいと思います。

【情報の参照先】

- SBI（乳がん画像診断学会）

<https://www.sbi-online.org/Portals/0/Position%20Statements/2021/SBI-recommendations-for-managing-axillary-adenopathy-post-COVID-vaccination.pdf>

- 日本乳癌検診学会

<http://www.jabcs.jp/images/covid-guide202107.pdf>

- 日本癌治療学会，日本癌学会，日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とがん診療について Q&A

-患者さんと医療従事者向け ワクチン編 第1版-

Q5：ワクチンの副反応に「接種した側のわきのリンパ節の腫れ」があるとあります。乳がんの術後です。気をつける点を教えてください。

<http://www.jsco.or.jp/jpn/index/page/id/2382#qa>

- ファイザー社の添付文書

https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210212001/672212000_30300AMX00231_B101_1.pdf

- CDC モデルナ

Moderna COVID-19 Vaccine: What Healthcare Professionals Need to Know

<https://www2.cdc.gov/vaccines/ed/covid19/moderna/40140.asp>

- Public Health England（英国公衆衛生庁）

COVID-19 vaccination Programme, Information for healthcare practitioners

https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/1009174/COVID-19_vaccination_programme_guidance_for_healthcare_workers_6_August_2021_v3.10.pdf